



verification service

**VERISERVE**

株式会社 **ベリサーブ**

**第9期 年次報告書**

2009年4月1日～2010年3月31日



代表取締役社長  
浅井 清孝

## 3つの成長戦略で、次のステップを目指します。

ン・システムなどのITS関連分野、デジタル家電分野など当社主力サービス分野の対象製品の開発サイクル見直しや製品開発コストの削減が実施された影響で、開発支援検証サービスが厳しい環境となったのが大きな要因です。

この状況を打破するため、当社では営業力をいっそう強化するとともに、新興国に積極的に進出する顧客に対応したグローバルでのサービス展開を準備しています。

一方、スタッフ部門の効率化を図りながら、募集費用の削減や不急の出費を抑えた結果、販売費および一般管理費は前期に比べ、およそ2割を削減しました。

### Q 当期の業績についての評価と率直なご感想をお願いします

国際的な景気低迷が続く中で、当期の売上高は51億59百万円(前期比30.3%減)、経常利益は2億18百万円(同62.3%減)、当期純利益は97百万円(同67.3%減)と、大変厳しい結果になりました。これは景気悪化のため、カーナビゲーショ

## Q 検証サービスの現状と 今後の見通しをどうお考えですか

検証サービス初期の対象はパソコンおよび周辺機器が主力でしたが、最近では携帯電話分野、薄型デジタルテレビなどの情報家電分野、カーナビゲーション・システムを中心としたITS分野へと推移してきています。このような分野では、製品に組み込まれるソフトウェアの比率はますます高まっており、より効率的で確度の高い品質管理が必要となっています。

例えば最新の携帯電話には1200万ステップ(行)に及ぶソフトウェアの言語が記述されており、これは400字詰め原稿用紙に換算すると約60万枚になります。その中に1つでも誤字脱字や、あいまいな言い回しがあってはならないため、極めて高い精度の検証が要求されるのです。

現在はまだ、開発メーカー各社による社内検査が多く行われて

いるのが実情ですが、中立的かつ専門的な技術を持った検査組織が行うべきとの考えも浸透し始めております。当社では「システム検証の産業化」を掲げて、お客様が安心して検証サービスをご利用いただける業界づくりを行いながら、従来の動作検証サービスのみならず総合的な検証サービスを提供することで、ビジネスを強化・拡張すべく、3つの柱からなる成長戦略を進めております。

## Q 3つの成長戦略について 詳しいご説明をお願いします

### ■1つめは「グローバル化する顧客対応」

日本企業は急速に海外進出したものの、現地でいかに品質を維持するかで悩んでいるのが現状です。そこで、顧客であるメーカー各社とともに海外事業を展開し、国際化するものづくりに対応した検証サービスを提供したいと考えています。すでに欧米には進出済みですが、今年4月に開設した中国・上海の子会社を足掛かりに、将

来的には他の新興国への展開も視野に入れています。

海外で勝負するためには、日本の“特産品”が不可欠です。他の国では真似のできない日本特有のものがなければ勝てませんが、「検証サービス」は、その“特産品”のひとつになり得ると思っています。製品開発の段階からお客様と一体となり、“あうん”の呼吸で製品の質を上げて行くという細やかなサービスは、当社が続けてきた“製販一体”の営業努力であり、日本人の得意とするところでもあります。

### ■2つめは「高いコストパフォーマンスの提供」

従来の検証は試作品で行っていましたが、その段階では遅すぎます。もっと上流工程で不具合を見つけられないかというニーズに応え、製品開発のフルラインで検証サービスを行うことで時間

とコストのロスを減らそうという仕組みです。

以前は約4割あったソフト開発時の単純なコーディングミスを「静的解析サービス」の導入で解消し、さらに上流の設計段階で発生する不具合については“人間の犯す間違いには共通点・傾向がある”ということから理論化・データ化した「不具合モード分析」によってチェックします。開発の上流から下流までトータルで検証することで、効率的な品質管理が実現し、はるかに高いコストパフォーマンスを提供できます。



### ■3つめは「単体からシステムへのパラダイムシフト」

現在のIT製品は薄型デジタルテレビやカーナビなど“単体”が主流ですが、これらの開発は人件費の安い新興国へ流れて行くでしょう。しかし、これからの大きな流れになるITS(高度道路交通システム)や家庭内で連動する情報家電などでは、さまざまなメーカーや年式、国籍の製品が連携して円滑に動かねばならず、コントロールするためには大変なシステム環境と検証が必要になります。これを実現できる技術力と経験値を持っているのは先進国しかありません。ここに当社の大きな強みがあると確信しています。

### Q 最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします

当社は、安定的かつ継続的な株主還元をしたいと考えており、当期は当初予想より500円増配し、1株当たり1,500円の期末配当を行わせていただきます。

また次期(2011年3月期)の見通しといたしましては、上期は厳しいものの、通期の純利益では、当期に比べ約20%増益を予想し、年間配当を1株当たり2,000円と予想しております。

検証サービスという事業はようやく世間に認知され始めた段階にあり、当社ではこれを産業化するための活動に邁進しております。

厳しい経営環境はまだ続くと考えておりますが、役員・社員一同力を合わせて努力してまいりますので、株主の皆様におかれましては、どうぞ長い目でのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### ◆次期(2011年3月期)の見通し

売上高	経常利益	当期純利益
5,200 百万円	230 百万円	120 百万円

## 製品検証サービス

売上高

5,020百万円

前期比30.5%減

97.3%

## 開発支援検証サービス

4,868百万円

前期比31.4%減

## 認定支援サービス

55百万円

前期比 0.4%減

## 検証情報サービス

95百万円

前期比43.8%増

当社の主力事業であります製品検証サービスのうち、総売上の94.4%を占める開発支援検証サービスは、主力検証対象製品が厳しい環境で推移したことにより、売上高は4,868,968千円(前期比31.4%減)となりました。

また、認定支援サービスにつきましては、米国マイクロソフト社の承認を必要とするDesigned for Windows®ロゴ取得の支援を主力としたサービスで、当期における売上高は55,903千円(同0.4%減)となりました。

検証情報サービスは、IT機器どうしを組み合わせ使用した場合の動作確認情報の提供及びITプラットホームテストセンターを時間単位で提供するサービスであり、当期はテストセンターを利用したテスト業務が増加した結果、売上高は95,845千円(同43.8%増)となりました。

以上の結果、製品検証サービスの売上高は5,020,717千円(同30.5%減)となりました。



## セキュリティ検証サービス

0.5  
%

売上高 **24** 百万円

前期比58.7%減

セキュリティ検証サービスは、顧客の社内システム及びインターネット経由で公開するホームページ、あるいは電子商取引用のインターネットシステムに対し、負荷の許容量や脆弱性を検証するサービスであります。売上高は24,046千円(前期比58.7%減)にとどまりました。



## その他のサービス

2.2  
%

売上高 **114** 百万円

前期比7.7%減

その他のサービスにつきましては、前記事業部門に分類されない検証業務や顧客企業内でのシステムインフラの構築やシステム開発及び社内システム保守・運用に関するサービスを提供しております。

当社ではシステム検証業務に注力し、新規のシステム開発等を行っていないため、当期の売上高は114,601千円(前期比7.7%減)となりました。

## ■ 貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

	当期 (2010年3月31日現在)	前期 (2009年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	4,717,328	4,709,757
固定資産	402,185	401,578
有形固定資産	97,292	112,986
無形固定資産	100,569	75,633
投資その他の資産	204,323	212,958
<b>資産合計</b>	<b>5,119,513</b>	<b>5,111,336</b>

(単位:千円)

	当期 (2010年3月31日現在)	前期 (2009年3月31日現在)
<b>負債の部</b>		
流動負債	569,748	604,018
固定負債	3,435	4,846
<b>負債合計</b>	<b>573,183</b>	<b>608,864</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	4,546,330	4,502,471
資本金	786,183	780,944
資本剰余金	769,933	764,694
利益剰余金	2,990,213	2,956,832
<b>純資産合計</b>	<b>4,546,330</b>	<b>4,502,471</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>5,119,513</b>	<b>5,111,336</b>



## ■ 損益計算書(要旨)

(単位:千円)

	当期 (2009年4月1日～2010年3月31日)	前期 (2008年4月1日～2009年3月31日)
売上高	5,159,365	7,402,607
売上原価	3,683,243	5,240,547
売上総利益	1,476,121	2,162,060
販売費及び一般管理費	1,279,391	1,593,268
営業利益	196,730	568,791
営業外収益	25,147	18,057
営業外費用	3,519	7,175
経常利益	218,358	579,673
特別損失	—	9,943
税引前当期純利益	218,358	569,729
法人税、住民税及び事業税	151,577	245,081
法人税等調整額	△ 30,580	27,028
当期純利益	97,361	297,620

## ■ キャッシュ・フロー計算書(要旨)

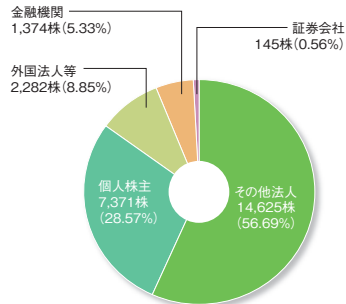
(単位:千円)

	当期 (2009年4月1日～2010年3月31日)	前期 (2008年4月1日～2009年3月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	228,169	83,229
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 80,485	△ 67,157
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 54,889	△ 124,681
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 3,089	△ 4,359
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	89,705	△ 112,968
現金及び現金同等物の 期首残高	3,560,333	3,673,302
現金及び現金同等物の 期末残高	3,650,038	3,560,333

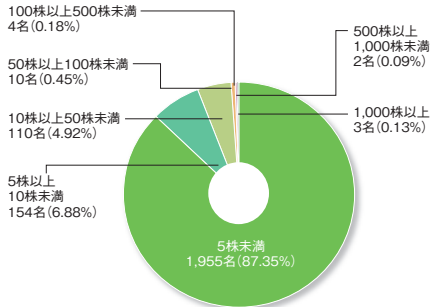
(注)各計算書類の記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

- 発行可能株式総数 ..... 64,000株
- 発行済株式総数 ..... 25,797株
- 株主数 ..... 2,238名

## ■ 所有者別株式分布状況



## ■ 所有数別株式分布状況



## 第9期の期末配当について

第9期の期末配当は当初予定より1株当たり500円増配し、下記のように実施いたします。

1株当たり **1,500円**  
 配当総額 **38,695千円**

なお、年間配当金は中間および期末を合わせて1株につき2,000円となり、年間配当総額は51,590千円となります。

年間1株当たり **2,000円**

## ■ 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社CSKホールディングス	14,500	56.21
メロン バンク エヌエー トリーティー クライアント オムニバス	2,000	7.75
ベリサーブ従業員持株会	1,099	4.26
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	599	2.32
浅井 清孝	500	1.94
ビーエヌピー パリバ セキュリティーズサービスルクセンブルグ ジャスデックセキュリティーズ	218	0.85
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	177	0.69
加藤 一夫	130	0.50
岩崎 泰次	106	0.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口6)	81	0.31

## 会社概要 (2010年3月末現在)

### Company Profile

商号	株式会社ベリサーブ VeriServe Corporation
本所在地	〒160-0023 東京都新宿区西新宿六丁目24番1号 西新宿三井ビル14F
設立	2001年7月24日
資本金	786百万円
従業員数	342名
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品検証サービス IT関連製品(ハードウェア、ソフトウェア)のシステム検証</li> <li>・セキュリティ検証サービス ネットワークシステムのセキュリティ分野での検証</li> <li>・その他のサービス</li> </ul>

## ■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-176-417
(インターネットホームページURL)	<a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html</a>
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 電子公告アドレス: <a href="http://www.veriserve.co.jp/ir/e pn/">http://www.veriserve.co.jp/ir/e pn/</a>
上場金融商品取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券・銘柄コード	3724

### ◆ IRサイトのご紹介 ◆

より詳細な財務情報をお求めの方は、当社IRホームページをご覧ください。決算短信や有価証券報告書など、IRに関する情報を提供しています。

<http://www.veriserve.co.jp/>

## 株式会社 ベリサーブ

〒160-0023 東京都新宿区西新宿六丁目24番1号 西新宿三井ビル14F  
TEL 03-5909-5700(代表)

